

原稿執筆要領

ver. 2025.05.15

【目次】

1. 執筆者の条件	1
2. スケジュール	1
3. 言語について	2
4. 原稿の書式.....	2
5. 提出方法.....	2
6. 校正について	3
7. 図表について	3
8. その他（引用・参考文献記載例）.....	3
9. 院生が『国際協力論集』に論文投稿を希望する場合	4
10. 著作権について	5

1. 執筆者の条件

- 1) 国際協力研究科の教員（客員教員・招聘教員・協力講座教員・任期付き助教を含む。）
- 2) 国際協力研究科に在職していた神戸大学名誉教授
- 3) 原稿提出時の年度に国際協力研究科に任用されている非常勤講師及び原稿提出時の年度に国際協力研究科に所属するGSICS研究員
- 4) 国際協力研究科の教員が推薦し、編集委員会が認めた者
- 5) 前項で大学院生の場合には推薦時に提出論文が完成していることを条件とし、レフェリーによる審査の上、編集委員会が掲載の可否を決定する。

※詳しくは 9. 院生が『国際協力論集』に論文投稿を希望する場合をご参照下さい。

2. スケジュール：国際協力論集は年1回の発刊です。当該年度の具体的な〆切日は、執筆募集時のメールにてご確認ください。

- | | | |
|------------|---|----------|
| ①執筆募集開始 | → | 例年5月初めごろ |
| ②執筆募集の締め切り | → | 例年5月末ごろ |

③執筆者決定 論題の提出開始	→	例年 6 月初めごろ
④論題の提出締め切り	→	例年 7 月末ごろ
⑤論文の提出期限	→	例年 8 月末
⑥校正	→	例年 10 月～12 月
⑦発行	→	例年 2 月～3 月中旬

3. 言語について

日本語または英語

和文の場合は英文の要約（300 ワードを上限とする）を添付して下さい。

4. 原稿の書式

【ポイント数】

和文の場合：本文10.5ポイント、図表出所・参考文献・脚注等9ポイント

英文の場合：本文10.5ポイント、図表出所・参考文献・脚注等9ポイント

【分量】

●刷り上り 1 ページあたり：和文の場合 1,280 字（注は 1,344 字）

：英文の場合は約 2,624 字

●全体の分量（本文・図表・参考文献・注釈・英文要約を含む）

論 文：刷り上り 30 ページまで

和文 16,000 字～28,000 字程度

英文 4,900 ワード～8,400 ワード

研究ノート：刷り上り 14 ページまで

和文 8,000 字～12,000 字

英文 2,100 ワード～4,200 ワード

翻 訳：刷り上り 14 ページまで

和文 8,000 字～12,000 字

英文 2,100 ワード～4,200 ワード

書 評：刷り上り 6 ページまで

和文 4,000 字～8,000 字

英文 1,050 ワード～2,800 ワード

*注釈は文末脚注にしてください。

*本文→参考文献→脚注→英文要約の順序でお願いします。

*この執筆要領に沿った形式で原稿の提出をお願いいたします。編集方針により、要領と異なる箇所につきましては、修正させていただく可能性がございますので、予めご了承ください。

5. 提出方法

基本的にワープロで作成した原稿の電子データとプリントアウトの両方のご提出をお願いしますが、やむをえない事情がある場合には電子データのみのご提出でも構いません。

6. 校正について

執筆者の校正は2回となっております。訂正は出来る限り初校で行なって下さい。
返却の締切日は厳守願います。

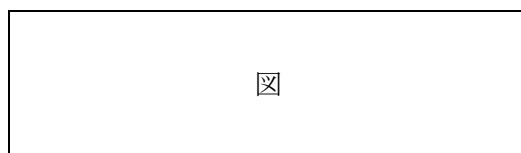
7. 図表について

図表の見出しは、

第○図とし、中央寄せで図の下につけ、

第○表とし、中央寄せで表の上につけて下さい。

例（図やチャート）



第1図 インドにおける直接投資の推移

出所：・・・

例（表）

第1表 アフリカにおける地域統合

表

出所：・・・

別紙にて作成される場合は、原稿のプリントアウト及び電子データにも挿入する場所をご指示下さい。また刷り上がりの時の大きさもご指示下さい。

例 図1 5 cm×10 cm

表2 7 cm×15 cm

8. その他

- ・ 本文中の章題番号は、ローマ数字（ゴシック）Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ…をお使い下さい。
- ・ 本文中の節題番号は、アラビア数字（ゴシック）1、2、3…をお使い下さい。
- ・ 数式番号は、式の後にできる限り通し番号でお願いいたします。
- ・ 文末脚注でお願いいたします。
- ・ 本文中の脚注番号は、行間の右肩に1、2、3…と示し、通し番号でお願いいたします。
（ ）等は不要です。
- ・ 刷り上がり原稿中にやむをえず規定外のポイントを使用する場合は、その旨ご指示下さい。

【引用・参考文献記載例】

形式は問いませんが、以下の例を標準とします。

1. 外国文献（英文の場合）

著 書--- 著者名, 書名（イタリック）, 発行所, 発行年月, 引用/掲載ページ.

例：N. H. Borden, *The Economic Effects of Advertising*, Homewood, 1942, pp. 35-40.

論文集--- 執筆者名, “論題”, in 編集者, ed(s)., 論文集名（イタリック）, 出版社,
発行年月, 引用/掲載ページ.

例：K.J.Arrow, “Optimal Capital Policy with Irreversible Investment”, in J. N. Wolfe, ed.,
Value, Capital and Growth, Oxford University Press, 1968, pp.1-20.

雑誌論文--- 執筆者名, “論題”, 雑誌名（イタリック）, 巻号（年月）, 引用/掲載ページ.

例：T. M. Brown, “Habit, Persistence and Lags in Consumer Behavior”, *Econometrica*,
Vol.38, No.3 (July 1925), pp.355-81.

Ibid., op.cit.の使用

・ Ibid（イタリック）--- 同一書を続けて引用する場合に用いる。（同上書）

例 - Ibid., p.15

・ op.cit.(イタリック)--- 同一書が他の引用を間に入れて引用される場合に用いる。
（前掲書）

例 - 著者名を明記し、N. Kaldor, *op. cit.*, p.10.

2. 日本文献

著 書……著者名『書名』, 発行所, 発行年月, 引用/掲載ページ。

例：新庄 博『貨幣論』, 岩波書店, 1952 年, 10～15 ページ。

論文集……執筆者名「論題」, 編者『論文集名』, 発行所, 発行年月,
引用/掲載ページ。

例：速水 融「日本の経済的近代化における歴史的前提」, 慶応義塾大学経済学会編
『日本の近代化』, 東洋経済新報社, 1967 年 10 月, 23～45 ページ。

雑誌論文…執筆者名「論題」, 雑誌名, 巻号（年月）, 引用/掲載ページ。

例：高須賀義博「再生産の局面分析」, 経済研究（一橋大）, 第 25 巻 3 号（1974 年
7 月）, 18 ～27 ページ。

* 「一」（ケイ）の使用

外国文献, 日本文献とも, 著者名または執筆者名に代わる「一」の長さは, 文献番号がつく
場合は 4 字分とし、つかない場合は 5 字分とする。

例 [3]_____

9. 院生が『国際協力論集』に論文投稿を希望する場合

GSICS 院生が『国際協力論集』に論文の投稿を希望する場合、以下の要件をご指導さ
れておられる先生からご本人にご確認の上、手続きをしていただきますよう、お願いい
たします。

- ① 5 月初めに全教員宛に執筆者募集のメールをいたします。
- ② 担当教員から、院生が論文投稿を希望していることを、共同資料室に「執筆者募集メール 3 ページ目（執筆希望調査書が添付）」にて 5 月末までにご返信（ご推薦）ください。
- ③ 前項でご連絡をいただくと同時に、院生本人は、添付の原稿執筆要領を参照の上、完成論文を 5 月末までにメールにて共同資料室にご提出ください。期限内に執筆希望調査書と完成論文の提出により院生の投稿論文の受付完了となります。
- ④ 査読審査。
- ⑤ 院生に論文のご返却と査読審査結果（レポート）をご通知します（7 月末）。
- ⑥ 「投稿可」の場合は、査読報告書の指示に従って修正等を行った完全原稿を完全原稿提出期限（8 月末日）までに再度ご提出いただきます。
- ⑦ 編集委員会にて査読審査結果を考慮して掲載の可否を決定します。

10. 著作権について

掲載された論文などの複製権は、国際協力研究科に帰属するものとします。よって、当該論文等の転載などを行う場合は、本研究科の許諾が必要になります。また、掲載された論文等を電子媒体で公開しますのでご了承下さい。

以上